

1

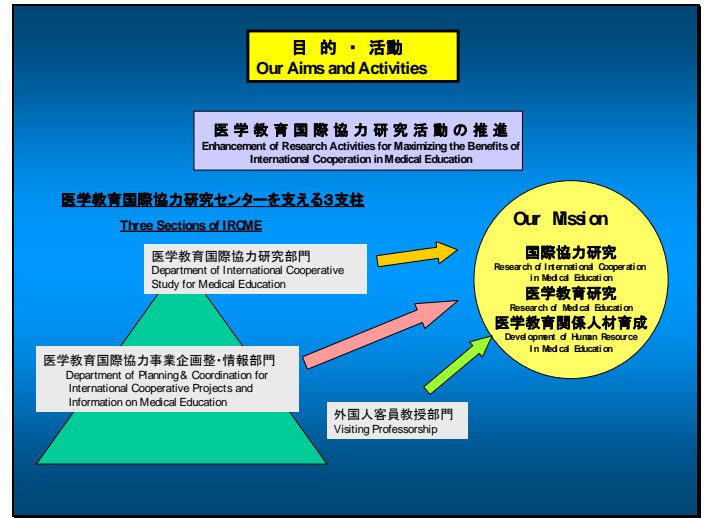
2006年3月30日 国際教育協力懇談会  
 わが国の大学等が有する「知」の活用について(2)

“アフガニスタン医学教育支援を中心に”

東京大学医学教育国際協力研究センター

加我君孝 センター長・教授  
 北村 聖 主任教授  
 武田裕子 助教授  
 大西弘高 講師

2



3

客員教授 Ellen Cosgrove教授の  
 医学教育連続講義

- 第1回 平成17年12月20日 主体的学習を促進する医学教育のテクノロジー
- 第2回 平成18年11月19日 PBLはその期待に応えるものであったか
- 第3回 平成18年11月31日 医学生と研修医に求められる医学研究の重要性
- 第4回 平成18年 2月21日 診療の質向上を目指して: 医師の行動をどう変えるか
- 第5回 平成18年 3月 8日 PRIME: 学生・研修医の新しい評価システム
- 第6回 平成18年 4月11日 プロフェッショナルリズムと医学教育



4

2002. 1 東京アフガニスタン復興支援会議  
 議長・緒方貞子氏

2年半に最大5億ドルの支援決定  
 保健医療分野

1. 緊急無償援助による医療機器供与(17億円)
2. 感染症無償によるワクチン供与(13.4億円)
3. 結核センターをはじめとする医療施設の修復
4. 保健医療政策
  - ① 女性と子どもの健康、 ② 結核対策 及び
  - ③ 保健医療全般業務調整専門家派遣、
  - ④ 研修員の受け入れ

5

東京大学医学教育国際協力研究センター  
 文部科学省とJICAからの要請とセンターの活動

- 2003. 8 アフガニスタン保健医療基礎調査団分遣隊(医学教育) センター、文部科学省、JICA コンソーシア(協力連携)形成
- 2003. 12 アフガニスタンより「医学教育」研修員を2週間受け入れフォーラム「アフガニスタンの医学教育支援の展開」開催
- 2004. 7 アフガニスタンへ医学教育プロジェクト事前評価調査団を派遣(センター、医学教育学会、JICA)
- 2005. 1 カブール医科大学より6名の教員を招聘し、1ヶ月研修(2005~2008の3年計画の第1回)
- 2005. 11 同上
- 2006. 11 同上予定

6

文明の十字路 アフガニスタン

- 1747 アフガニスタン建国
- 1850 イギリス・アフガニスタン戦争
- ~1880 アフガニスタン勝利
- 1979 旧ソ連軍侵攻
- 1988 旧ソ連軍が撤退
- 1990 内戦 タリバン時代
- 2001 米軍空爆
- アフガニスタン・イスラム共和国発足(カルザイ大統領)
- 2002 東京でアフガニスタン復興支援国際会議



## 爆撃を受けた旧教育病院跡



## アフガニスタンの人口と医療従事者

人口 : 2,681万人

上水道完備割合: 13%

医師数 : 1.1/万 (日本 22/10万)

看護師、助産師数: 1.5/1万、0.3/1万  
(日本 120/10万)

## アフガニスタンの保健医療指標

— 医療・保健状況の劣悪な国の一つ —

1. 妊産婦死亡率 1,700/10万 (17%)
2. 乳児死亡率 165/1000 (16.5%)
3. 栄養不良の子ども 40%
4. 平均寿命 47歳

## アフガニスタンの病気 ワースト3

1. 結核
2. チフス
3. 寄生虫と皮膚リーシュマニア症

## アフガニスタンの医療の現実

1. 診断・治療・手術の器材が不足
2. 電気が不足
3. 薬剤が不足
4. ナースが不足
5. 衛生状態の劣悪(上下水道劣悪)

## 現教育(大学関連)病院の手術室



## アフガニスタンの医学教育・医療の課題

1. タリバン政権による女子の就学禁止政策による女性の医療従事者の人材不足
2. 医療機関はカブールに集中
3. 医師養成期間の不足(カブール医科大と6地方医科大)
4. 旧ソ連の影響を受けた医学教師
5. 老朽化した建物。実習施設と実験器材の不足
6. カブール医科大教員180のうち学位のある者3名
7. 学生数の削減(1学年600名から100名)

## 国際協力における大学が有する「知」の活用

### — 発信と受信 —

1. 専門性(医学)
2. 総合性(各学部の協力)
3. 教育と人材の養成
  - 1) アフガニスタンの研修生
  - 2) 全国の医学生への教育
4. 研究(協力研究のアカデミズム)
5. 臨床(疾病の診断・治療のフィールド)

## カブール医科大学内 東京大学共同研究センター



## 現地でのPBL ワークショップ



## アフガニスタン医学教育支援の方向

### アフガニスタン医学教育プロジェクト計画 2005～2008年 (3年間)

1. カブール医科大学における
  - ・ GP育成のための卒前医学教育の改革支援
  - ・ 医学教育開発センター(Medical Education Development Center, MEDO)の支援
2. 教員研修(FD支援のための国内研修(カブール医科大学教員6名、8週間/年×3年)
3. 短期専門家(1か月～3か月程度、2名×3年)、  
長期専門家(1年以上、2名×3年)派遣による現地支援
4. 教材開発、印刷機器供与などの支援



2005年12月 東京大学医学図書館  
第1回全国医療系学生のための国際協カフォーラム

“アフガニスタンの医学教育と医療への国際協力”

参加者:

- カプール医科大学より教授・助教授・講師 6名
- 全国の医学生・看護学生他 約20名
- 医師 その他 約10名

